

「みんなで学校を創ろう！」 の過程と期待



栄村教育委員会教育長(文・写真)

下 育 郎

(山ノ内町・長野市)

2022年6月から始まった「みんなで学校を創ろう！」も21

回を数え、参加者も延べ600人を越えた。

村としてどのような教育をしていくべきか、望ましい子ども像はどのようなものだろう、そのための授業はどうあつたらよいのだろう、その授業をするために建物はどうあるべきか、校名や目標、服装やきまり、校歌…そんなハード・ソフト面など細かな項目もほぼ全てをワークショップ形式の話

し合いで決めながら基本設計を終え、校舎増改修も実施設計終盤に差し掛かっている。

一部の住民や有識者による話し合い、教育委員会が住民を説得したり納得してもらったりするのでなく、参加者全員が教育や子育て、村の将来について熱い思いを語りながらこの2年半歩んできた。

時には、飛び入りで東京栄村会の方にもご参加いただいた。

児童数減少に伴うネガティブ思考な統合や最初から統合ありきの議論ではなく、この村で願う教育を実現するためには、小中学校統合がベストな選択だと考えた上での統合だ。

義務教育学校が小中一貫校が学校形態で悩むときには、マイクロバスを借り上げ、実際に県内校の視察に向かったが、大人にとってもこうした直接経験は実り多いものだった。



参加者全員が熱い思いを語る



ワークショップ形式の話し合い

のだった。

このような学校統合の道筋も、村民主体の話し合いの歩みも、全国的に例を見ない試みであり、当村のような小さな村の良さを最大限に生かした試みだと自負している。

また、設計業者もプロポーザル方式(提案型)で選定を行い、どのようなコンセプトで設計を行うのか参加された村民を目の前にプレゼンをしてもらった。

参加者全員が複数項目で評価し、

7割以上の評価をもって選定してきた。

細かなこだわりや、願いについても設計業者と何度も話し合いながら一緒に増改修の構想を練り上げ、いつの間にか、設計業者は私たちの心強い仲間となっていた。

必要な情報や考え方に近い先行事例を紹介していただいたり、時に



校舎増改修設計イメージ(教室)



校舎増改修設計イメージ(階段)

は教育委員会のメンバーと共に参考になる東京や他県の施設にも視察に訪れたりすることもあった。

新しい義務教育学校は一言でいうならば「多様性を認める学校」である。明治の学制発布から約150年間続いていた同年齢による一律・一斉の効率化された教育、教師が黒板に背を向けながら、子

どもたちの前に立ちチョーク&トピックで知識を教え込む授業や、漢字や計算などの技能をとにかく身につけさせることに力を注ぐ授業ではなく、その子の学びのスタイルや早さに対応するその子らしい教育、その子に合った教育を目指している。

教師主導ではなく、子どもたち同士が共に関わり合いながら学ぶ道筋、決められた教室以外どこでも学ぶ事ができる自由さや、個々の学びの早さに応じ学ぶことができる自由進捗学習など様々な面でその子らしさを更に伸ばしながら自尊感情を高め、唯一無二の存在である自分自身を好きになってもらいたいと願っている。

授業で多様性を認めても、生活の中でもそれを認めなければ整合性が取れない。そのため、中学校では制服廃止を決定すると共に、運動着も学校指定品を決めず、市販されている運動着の着用を認め、さまざまな部分で「揃えない」ことにも注力した。

子どもを取り巻くトータルな面

で大人が枠を作らず、子どもが学校に合わせるのではなく、子どもにとつて居心地がよく、学びやすく楽しい学校になるよう、学校が子どもたちに合わせて変わっていくという考え方を何より大切にしてきた。

学び方といったソフト面ばかりでなく、校舎増改修工事は新たな学びにとつて不可欠かつ重要な要素だと考え、ここにも力を注ぎ、何度もワークショップを重ねた。

開校前の工事期間である令和7

栄村の「義務教育学校」を応援しよう！

栄村は子どもが減少する中、新しい学校の方向性として「義務教育学校」とすることになりました。令和8(2026)年の開校で進んでいます。

「義務教育学校」とは小学校6年と中学校3年の義務教育期間を、9年間の一貫して行う新たな学校の仕組みのことです。

教育委員会を中心に2022年から「みんなが学校を創ろう」と皆さんが参加して教育の在り方、子育てなどを話し合い、村の

4月からの約1年半の共同生活は、小中の子どもたちが必要なきまりや新たな学校の在り方について、自分たちの新しい生活は自分たちで創っていく！という気概に溢れるものであってほしい。また、教師も小中の考え方の違いを擦り合わせ、授業の進め方や子どものみとりの差異をいかに少なくしていくか探る貴重な時間にしてほしい。

東京栄村会の皆様の居場所としての学校には「地域連携室」として

用意してあるので、いつでもお越しいただき、地域の方や子どもたちと関わっていただきたいと願っている。ふるさと栄村を懐かしむと共に、新たな栄村の学校に 기대いただきたい。

*「みんなが学校を創ろう！」
21回の活動に敬服。将来を担う子供たちは宝です。楽しく学べる学校にしてください。
(編集部)

将来を考えてきました。

東京栄村会も「多様性を認める学校」に子供たちが伸び伸びと楽しく学ぶこと、村が発展することを応援いたします。

会員の皆さま、義務教育学校設立にご協賛・ご寄付をよろしくお願い申し上げます。

2024年 11月30日

東京栄村会会長 桜 沢 一章